

Department of Economics

経済学科

Shiga University Faculty of Economics

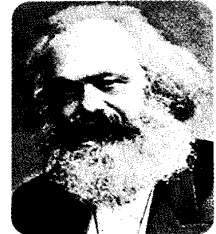
経済学科の新入生の皆さんへ

経済学はどんな学問か

経済学の研究分野

経済学の学習ステップ

教員のプロフィール



経済学科の新生の皆さんへ

経済学はどんな学問なのか。具体的にはどのような研究分野があるのか。どのようなステップで経済学を学習すればよいのか。経済学科の新生のこうした疑問に答えるために、この学科案内は編集されました。これを読んで、これからの学習プランを考えてみてください。また経済学科の教員のプロフィールを紹介してあります。なにか悩みがあれば、いつでも気軽に相談に来てください。在学中はしっかり保存しておいて、演習や科目の選択の際にも参考にしてください。



1. 経済学はどんな学問か

自分自身の生きがい追求しながら豊かで幸福な暮らしを送りたい。これは私たちが心のどこかに持っているささやかな望みでしょう。遠い昔の時代にくらべると、私たちはずいぶん豊かで自由になりました。食べるものも、着るものも、住むところも、遊びも、仕事も、どれをとっても世の中にはいろいろあって、なんでも自分で自由に選ぶことができます。けれども、自分自身のささやかな望みを実現しようといくら頑張ってみても、どうもうまくいかないこともあるものです。たとえば、不況の影響で会社が倒産したり、リストラで首を切られたり、自営の商売がうまくいかなくなると、自分や家族の日々の暮らしが危うくなります。食べていくというあたりまえのことでさえ、私たちは自分自身でうまくやれないところがあるのです。まるで私たちの暮らしの根っここのところで、なんだか得体の知れない仕組みが、勝手に歯車をまわしているかのようです。普段なにげなく暮らしている私たちは、こうした仕組みのことを深く考えることはありません。**私たちの暮らしを支えている仕組みを振り返ってみること。これが経済学の出発点です。**

1.1 暮らしと経済

私たちは日々の暮らしのなかでいろいろなことをしています。たとえば、食べる、眠る、仕事をする、アルバイトをする、勉強する、読書をする、音楽を聞く、テレビを見る、ドライブをする、旅をする、思案に耽る、恋をする、ボランティアをする、選挙で投票するなど。こうした人としてのいろいろな営みをひっくるめたのが「暮らし」です。もちろん、人々の考えとか価値観というのは十人十色ですから、私たちの暮らしにはそれぞれの個性があるでしょう。しかし、そこには共通したところもあります。私たちはなにをするにもいろいろなモノを必要としています。

ところで、ふつう私たちは普段の暮らしに必要なモノをどこかで購入して使っています。ですから、私たちの暮らしが順調であるためには、なにはともあれ、社会のなかで暮らしに必要なモノが絶えずつくりだされ、それが身近なところで販売されていなければなりません。暮らしに必要なモノはたくさんありますから、自分ひとりの力で取り揃えることはできません。社会にはたくさんの仕事があることから解るように、暮らしに必要なモノをつくって販売するという営みを、私たちは互いに分担しあっています。私たちはなんらかの仕事を分担することでお金をもらい、お金と交換に暮らしに必要なモノを買って使っているのです。**社会のなかで、暮らしに必要なモノをつくる、販売する、購入して使う。この一連の活動が「経済」という営みです。**私たちの暮らしは「経済」という社会の営み

と密接に結びついています。

1.2 経済の仕組み・暮らしの仕組み

こうした経済の営みをうまく進めるためには、なんらかの巧妙な仕組みが必要となります。私たちが生きている資本主義社会では、**お金でモノをやり取りするという仕組み**が基礎になっています。これは「**市場**」と呼ばれるものです。暮らしに必要なモノをお金で買うというのはあたりまえのことですが、市場という仕組みはいろいろなところで機能しています。たとえば、人々の暮らしに必要なモノを作り販売する会社も、お金と交換に必要な道具とか資源を手に入れています。会社に勤める多くの人々はサラリーマンと呼ばれていますが、彼らは自分の働く能力を会社に売ってお金をもらっています。また人からお金を借りれば、利子と呼ばれるお金をつけて返さなくてはなりません。人の働く能力とかお金自体も市場で取引されています。市場ではお金と交換にモノがやり取りされるのですから、当然モノには値段が付いています。モノを売る人も買う人も値段を見ながら自分の利益を求めて自由に行動していますが、モノの値段が上がったり下がったりするなかで、経済という社会の営みがうまく進むように、いろいろな調整がなされているのです。

しかし、**経済の仕組みというのは、市場というからくりだけからなるものではありません**。たとえば、モノをつくったり販売したりする会社は、経営がうまくいくようにさまざまな工夫をしながら、巨大で巧妙な**組織**をつくりあげています。また、会社と会社はいろいろなつながりを持ち、市場での活動をうまく運ぶために、さまざまな**制度**をつくりあげています。またいろいろな会社にお金を融通する銀行という組織は、ひとつの制度的な構造をつくりあげています。こうした組織とか制度というのも、経済の円滑な営みを支えています。さらに、市場をうまく機能させるための**基盤**をつくるために、人々はさまざまな**法律**とか**慣習的なルール**を取り決めています。市場を規制する法律をつくったり、さまざまな制度をつくったりするのは、私たちが選んだ**政府**です。政府はさらに、市場での自由な活動に任せていたのではうまくいかないような、モノづくりと販売のための基盤を整えるために、いろいろな活動をしています。また経済の仕組みというのは、私たちが住んでいる国とか地域のなかだけで閉じているものではありません。国ないしは地域の経済の営みは**グローバルな広がり**と**つながり**を持っています。ですから、これらのあいだの関係がスムーズにいくように、政府とか経済団体がいろいろ国際的ルールを取り決めています。経済の仕組みというのは、市場というからくりを根幹としていますが、法律とかルールとか慣習とか制度とか組織とか、いろいろなものが複雑に重なり合っ

て織りなされているものなのです。

ところで、**私たちの暮らしには、そもそもお金でモノをやり取りするという仕組みになじまないものもあります**。たとえば、人の命をまもる医療をいつでも受けられるようにするにはどうしたらいいのでしょうか。年老いたり病気になったりしたときの暮らしをどのように支えていけばいいのでしょうか。寝たきりの人の介護をどのようにやればいいのでしょうか。身体に障害を持つ人も人間らしく生きていける社会をつくるにはどうすればいいのでしょうか。子供の健全な精神の発達を見守るような教育とはどのようなものなのでしょうか。自然環境と共生できるような暮らしを実現できるのでしょうか。こうした問いかけが含んでいるものは、私たちの暮らしにとってとても大切なことです。私たちの暮らしには、経済という社会の営みと密接に絡み合いながらも、経済の仕組みを巧妙につくるだけではうまくいかないような、大切なことがらが含まれています。

1.3暮らしの仕組みは不変ではない

普段なにげなく暮らしている私たちは、現在の暮らしの仕組みを不変のものだと思い込んでいるところがあります。しかし、決してそうではありません。**暮らしの仕組みは歴史的時間のなかでいろいろと変化してきました。**古代社会とか封建社会の暮らしの仕組みは、現在のものとはずいぶん違ったものでした。過去のいろいろな暮らしの仕組みが積み重なるなかで、現在の暮らしの仕組みが生まれてきたのです。また基本的な仕組みが同じであっても、ヨーロッパとアジアというように、**ところ違えば暮らしの仕組みも微妙に違うでしょう。**市場を基盤とする資本主義に対して、国家が経済の営みを計画的に管理する体制を社会主義と呼びますが、20世紀は社会主義の実験の時代でした。まさに**暮らしの仕組みにはいろいろタイプがありえる**のです。つまり、私たちは現在の仕組みを改良したり、新たな仕組みを創造したりできるのです。

1.4経済学の目的

経済学の目的は、「暮らしの仕組み」がどのようなものなのか、それはどのように動いているのか、もし具合の悪いところがあればどうすればよいのか、ということを解明することにあります。

《他の学問分野との関連性》

現実の複雑な経済の仕組みを考察する場合には、理想的な観察を可能にするような真空状態をつくるかのように、この仕組みの本質的な部分だけにスポットライトをあてるのが、とりあえずは賢いやり方でしょう。こうした方法を取れば、経済の仕組みに貫徹する普遍的な法則が導けるはずです。

しかし、経済の仕組みというのは、決して単色の理想的な「純粋型」ではありません。現代の資本主義経済を考えてみても、いろいろな組織とか制度とかルールなどが市場を取り巻いています。経済の仕組みは、その根幹のメカニズムが同じであっても、それぞれの国や地域の歴史、慣習、文化、宗教、人々の信条などに依存した、多様な姿をしています。ですから、経済の仕組みを解明しようとする場合には、普遍的な「純粋型」を分析するだけでなく、ときには文脈に依存した「特殊型」を分析したり、互いに異なる仕組みを並べて比較してみたりする必要があります。さらに、私たちの暮らしは、経済という社会の営みに押し込むことができないさまざまなものを含んでいますから、スポットライトをあてる範囲を広げてみることも必要になります。

こうなると、私たちは経済学の固有の分析道具だけに固執することはできません。経営学や会計学という比較的近い分野はもちろんのこと、社会学、法学、政治学、文化人類学、心理学、宗教学、哲学など、他の学問領域にも注意を払わねばならないでしょう。ひょっとすると、小説を読んだり、語学の勉強をしているときに、文化的・宗教的なバックボーンが違う人々の動機付けや行動の違いを偶然に発見するかもしれません。他の学問分野への越境は、経済学の考え方をいっそう洗練することにもつながるでしょう。

2. 経済学の研究分野

American Economic Association（アメリカ経済学会）は、数多くの様々な研究論文を分野・テーマごとに区分するための分類表（JEL Classification System）を作成しています。経済経営研究所の書架に並んだ学術雑誌や、図書館のHPの電子ジャーナルを見れば、世界中の研究者の多くが、自分の研究がどの分野に属しているかを示すために、こうした分類表のコードを利用していることが分かるでしょう。

以下では、この分類表の大きな項目だけを紹介します。とりあえず、「こんなことを研究しているのか…」「こんなことが研究の対象なのか…」という印象を持ってもらえれば十分です。また、それぞれの大きな項目の下には、さらに詳細な研究分野が列挙されています。興味のある人は、次のHPを参照してください。

<https://www.aeaweb.org/econlit/jelCodes.php>

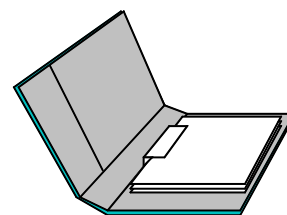
滋賀大学経済学部は日本で最大の規模を誇る経済学部です。経済学科の教員スタッフの研究分野は多様であり、ここに掲載する研究分野に関連する大部分の授業科目が提供されています。

なお、括弧内には日本での慣用的な訳語や補足説明などを示しています。但し、JELの詳細な分類項目を見ると、かならずしも注意書きの名称がそれに相応しいとは言えない場合もあります。

- A: General Economics and Teaching（経済学の教育方法も研究対象）
- B: Schools of Economics and Methodology（経済学説史，経済学方法論）
- C: Mathematical and Quantitative Methods
（数理的・数量的分析方法－統計学，計量経済学，数理経済学）
- D: Microeconomics（ミクロ経済学）
- E: Macroeconomics and Monetary Economics（マクロ経済学，貨幣経済学）
- F: International Economics（国際経済学）
- G: Financial Economics（金融経済学－ファイナンス学科の授業科目）
- H: Public Economics（政府部門の経済学－財政学，公共経済学など）
- I: Health, Education, and Welfare（医療・健康，教育，福祉の経済学）
- J: Labor and Demographic Economics（労働経済学，人口の経済学）
- K: Law and Economics（法と経済学）
- L: Industrial Organization（産業組織の経済学）
- M: Business Administration and Business Economics; Marketing; Accounting
（経営管理，企業経済学，マーケティング，会計－企業経営学科・会計学科などの授業科目）
- N: Economic History（経済史）
- O: Economic Development, Technological Change, and Growth
（開発経済学，経済発展，技術進歩など）
- P: Economic Systems（経済体制，比較制度論，移行経済）
- Q: Agricultural and Natural Resources Economics（農業，天然資源，環境）
- R: Urban, Rural, and Regional Economics（都市経済学，地域経済学）
- Z: Other Special Topics（その他のトピックス－文化経済学など）



3. 経済学の学習ステップ



3.1 「現代経済学基礎」とコア科目の学習から

統計学 A・B, ミクロ経済学 A・B, マクロ経済学 A・B

経済学では、次の2つの基本的な学習が必要不可欠です。

- －経済現象の複雑な諸関係を数量的に把握する能力を養うための学習
- －標準的な基礎理論を習得するための学習

そこで、必修の「現代経済学基礎」と上記のコア科目はかならず最初に履修してください。

なお、上記の基盤となる諸科目の学習には、最低限度の数学的な論理操作が必要とされます。そこで、「分析ツール」も必ず履修してください。

コア政治経済学, 社会経済史

滋賀大学経済学部の特徴は、上記の主要なコア科目と同時に、「政治経済学」と「社会経済史」をコア科目に含めていることです。これらコア科目も必ず履修してください。

欧米の大学でも、経済史をコアに含めている場合があります。それは、現代の経済現象の理解に歴史的な認識が欠かせないことや、理論研究の斬新なアイデアの源泉ともなるからです。政治経済学は、日本における経済学の伝統の中で重視されてきた「マルクス経済学」のアプローチが紹介されます。経済学批判の精神を学び、「暮らしの仕組み」の性格を原理的・歴史的・制度的な観点から分析する方法を学習して、広い視野を形成してください。

《世界の主要な大学におけるカリキュラム》

欧米の主要な大学では、経済学を主専攻とする学生に対して、統計学(もしくは計量経済学入門)、中級レベルのミクロ経済学とマクロ経済学を、コア科目として修得することを要求しています。また、基礎レベルの数学を習得していない場合には、並行して指定された数学科目を履修しないといけません。

このハードルを突破して初めて、JEL Classification System の紹介で示したような応用分野の科目に進むことができます。

米国のトップレベルのハーバード大学がこういうシカリキュラムなのは当然でしょう。イギリスの経済学教育も随分とアメリカナイズされてきたと評判ですが、伝統を重んじる名門オックスフォード大学でも事情は同じです。さらに、米国のボストン郊外にある教養教育重視のアマースト・カレッジ(滋賀大学経済学部に近い)でも、やはり主要なカリキュラムは同じ構成です。最近では、中国、韓国、シンガポールなどアジアの国々の大学でも、同じようなカリキュラムを採用しています。

【Harvard University】

Math 1a or equivalent knowledge (基礎レベルの数学), Social Analysis 10 (経済学入門－教養教育レベル), Econ 970 (個人指導)

Stat 100 or Stat 104, or both Stat 110 and 111, or both Stat 110 and Econometrics

(統計学・計量経済学), Econ 1010a or 1011a (ミクロ経済学－1011の方が要求される数学の水準が高い), Econ 1010b or 1011b (マクロ経済学－同上)

【Oxford University】

経済学関連のコースが複数ある。PPE と呼ばれるコースでは、Philosophy, Politics, Economics を幅広く学習するので、経済学のウェイトは低めだが…。

1年生：3分野を均等に学習。

Economics については、Microeconomics, Macroeconomics, Elementary Statistics

2～3年生：3分野均等, 2分野集中, 特定コア特化のタイプに分かれる。

Economics については、Microeconomics, Macroeconomics の advanced course

【Amherst College】

9科目を履修して修得すべし。このうち Econ11 (経済学入門), 53 (マクロ), 54 (ミクロ), 55 (計量経済学入門) は必修。さらに Math11 (基礎数学) を修得するか、それと同等の能力を有することを証明すべし。

3.2 専門的な研究分野へ

上記の『現代経済学基礎』とコア科目を学習したあとは、専門科目を履修することになります。滋賀大学経済学部では、**専門演習、特別研究（副演習）、プロジェクト科目などを組み合わせて**、効果的な学習ができるようにカリキュラムが設計されています。

プロジェクト科目の位置づけや特徴についての詳細は、「大学入門セミナー」の講義概要、経済学部規程などでも紹介されますから、以下では、具体的な事例（あくまでも架空のものですが）をつくって、専門的な研究分野での学習プランを描いてみましょう。

Aさん：「将来の希望は公共政策を立案できる公務員。官庁や県庁などで創造的な仕事がしたい。NGOやNPOで働くのもいいかな。」

- 「3.1『現代経済学基礎』とコア科目の学習から」で示した科目（分析ツールも含む）を履修
- 専門演習は「財政学」の指導教員を選択
- 特別研究は「地域経済」か「行政学」の指導教員を選択
- プロジェクト科目「琵琶湖集水系の環境保全と産業政策」（科目名は仮想のものです）を選択

Bさんの場合：「経済理論やファイナンスの理論はおもしろいと思う。でも企業財務にも惹かれていて、将来はコンサルタントとして働きたい。」

- 「3.1『現代経済学基礎』とコア科目の学習から」で示した科目（分析ツールも含む）と簿記会計・経営学コア（他の学部コア）等の科目を履修
- 専門演習は「財務諸表」など会計学科の指導教員を選択
- 特別研究は「マイクロ・ファイナンス」「金融工学」などの指導教員を選択
- 陵水協力講義、プロジェクト科目などの実践型科目も履修

Cさんの場合：「滋賀大学では学際的に勉強できるのが魅力。将来はロー・スクールに進学したい。特に医療経済分野に強い法律家なら、法学部出身者と違う味がだせるかな。」

- 「3.1『現代経済学基礎』とコア科目の学習から」で示した科目と医療経済学・法学（学部コア）を履修
- 専門演習は「民法」の指導教員を選択（進学指導や勉強方法についての情報も入る）
- データサイエンス学部の医療統計学に関する科目も履修

これらはいくまでもサンプルにすぎません。目的意識をしっかりとって各自の学習プランを考えてみてください。相談したいことがある場合には、いつでも気軽に経済学科の教員スタッフに声をかけてください。専門分野の研究と教育に没頭してきた教員スタッフとのコミュニケーションからは、いろいろなプランが描きだせるでしょう。



教員のプロフィール

氏名	石井利江子（いしりえこ）
担当科目	現代経済学基礎、産業組織論、ゲーム理論、数学的思考
現在の研究	公共入札における入札データを分析する研究を行っています。入札談合のメカニズムを解明するための研究や、談合における入札行動のパターン分析、制度変更が入札行動に与える影響などを分析しています。
新入生へ	大学生活を通して、疑問がわいたときや、何かを知りたい・理解したいと思った時に、それを自分自身で解決する手段を学ぶと良いのではないかと思います。
学生時代に読んで欲しい本	河口慧海著「チベット旅行記」講談社学術文庫 佐渡裕著「僕はいかにして指揮者になったのか」新潮文庫 藤原正彦「若き数学者のアメリカ」新潮文庫

氏名	石井良一（いしりょういち）
担当科目	地域経済論
現在の研究	産学公連携推進機構で、行政改革、まちづくり、地域経済活性化、公務員の人材育成などを通じて大学と社会との橋渡しをしています。現在、特に注目しているのはツーリズム。観光事業者などと「滋賀の観光イノベーションフォーラム」を形成し、オリンピック、関西万博を捉え、滋賀の観光を成長させたいと思っています。
新入生へ	受け身にならないこと。手始めに、授業で「質問」をしてみましょう。質問することでコミュニケーションが生まれ、思索、創造につながります。友達づくりにも役立ちます。社会に出ても「質問力」の差が「人間力」の差になります。農業ビジネス研究会を主宰し、大学構内で野菜を育てています。興味ある方は社会連携研究センターまで。
学生時代に読んで欲しい本	童門冬二「小説上杉鷹山」集英社文庫 本間正義「農業問題」ちくま新書 米倉誠一郎「創発的破壊」ミシマ社

氏名	大濱巖（おおはまがん）
担当科目	統計学 A、数学的思考
現在の研究	経済学科にしながら経済家ではなく数学家です。ですから研究も数学（統計）に関することをしています。現在はカオスと呼ばれる数列を利用した通信システムの統計的評価について研究しています。
新入生へ	学生時代に覚えたものといえば酒の飲み方、いい店の見分け方、少しの数学とそしていろいろな人との話し方。同級生や同じクラブ・サークルの先輩後輩といった閉じられた世界だけでなく、学外の種々雑多な人たちと知り合ってください。
学生時代に読んで欲しい本	蓑谷千風彦『統計学の話』東京図書 シャーマン・スタイン『数学ができる人はこう考える』白揚社 河合隼雄『家族関係を考える』講談社現代新書

氏名	小倉明浩（おぐらあきひろ）
担当科目	世界史における東アジア、世界経済論
現在の研究	大きなテーマとしては、世界経済レジーム（貿易や金融が円滑に進むための制度枠組み）のあり方の研究を目指しています。現在は、先進国と途上国間の経済統合について、経済開発の視点から研究を行っています。
新入生へ	「今 18 歳に戻れたら…、あんなただ時間が過ぎていったような生活は絶対したくない」と後悔しているおっさんとしては、「有意義に」とか「パッションもって」とか言いたくなりますが、実際は難しいんですよね。何とか、「楽しい」「熱い」を見つけることを意識して生活してもらいたいですね。
学生時代に読んで欲しい本	チャールズ・P・キンドルバーガー『経済大国興亡史』上・下 岩波書店 橋本寿朗『戦後の日本経済』岩波新書 ウィリアム・イースタリー『エコノミスト南の貧困と闘う』東洋経済新報社

氏名	金秉基（きむびよんき）
担当科目	経済開発論、開発政策論、アジア経済論
現在の研究	開発途上国における経済開発政策、経済成長要因、国際開発協力について研究しています。国内市場が狭く、資本と賦存資源が不足している開発途上国は、どうすれば経済発展が軌道に乗るかを明らかにすることが目的です。特に、東アジア・東南アジアにおける貧困削減・農村開発・教育開発・環境保全を研究対象にしています。
新入生へ	時間のある学生時代に世界の色々な国・地域を旅行して下さい。そして旅行先で酒を飲んだり、異文化に出会ったりしながら国際的感覚を身につけて下さい。世界の各国の生活水準の格差を自分の目で確かめて豊かな国に住んでいる我々にできることは何かを考える機会を持ってみてください。
学生時代に読んで欲しい本	マックス・ヴェーバー著『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波書店 竹内靖雄著『経済倫理学のすすめ』中公新書 菊池京子編『開発学を学ぶ人のために』世界思想社

氏名	佐野洋史（さのひろし）
担当科目	現代経済学基礎、医療経済学、社会保障論、現代の諸問題
現在の研究	医師不足や介護労働者不足を解消するために国、自治体、医療・介護施設が実施すべき政策について研究しています。特に、医師や介護労働者がどのような勤務条件を最も重視して職場を選ぶのかを、数量的に分析しています。
新入生へ	私が講義で教えるのは、医療、介護、年金など、社会保障の仕組みや問題点に関することです。若い皆さんにはまだどれも馴染みのないものだと思いますが、今後日本の将来を支える皆さんだからこそ、ぜひ問題意識を持って欲しいと思います。
学生時代に読んで欲しい本	大竹文雄『競争と公平感』中公新書 竹中平蔵『経済古典は役に立つ』光文社新書 鈴木亘『社会保障亡国論』講談社現代新書

氏名	鈴木康夫（すずきやすお）
担当科目	マクロ経済学 B、標準試験（マクロ A・B）、経済変動論、産業連関論
現在の研究	経済学の基礎理論（マクロ・ミクロ・厚生経済などの理論）や応用理論（マクロ財政金融政策・国際的要素移動・資源管理・漁業・経済発展等の分析）の研究で、特に、ケインズの経済学の視点で景気変動と貨幣現象及び経済成長を主に研究しています。
新入生へ	自分だけの時間は徐々になくなります、いろいろな著作物や記録に接してください。あきらめずに、難しいことに挑戦してください、そうすれば人間的に成長できます。子供向けに自己紹介や、朗読、おとぎ話が上手にできるように練習してみてください。
学生時代に読んで欲しい本	1：山本周五郎や藤沢周平の時代物小説や、江戸時代ないし戦前の人物の伝記もの。 2：特に、後藤新平や高橋是清についての本や、戦争を生き抜いた人についての本。 3：新聞。

氏名	田中勝也（たなかかつや）
担当科目	環境政策論、資源経済学、地域文化情報論（DS 学部）、地域文化情報演習（DS 学部）
現在の研究	生物多様性などの生態系サービスを保全するためには、経済学の考え方が非常に役に立ちます。課税・補助金・規制などの政策を組み合わせ、生態系サービスと経済活動の両立をどう実現していくか、その具体的な方法について研究しています。
新入生へ	専門性と国際性が重視される時代です。大学生活の間に人とは違うスキルをぜひ身につけてください。国際性では、旅行でも留学でもぜひ海外に足を伸ばしてみてください。学生の中の海外経験は、しばしば進路を決める重要な契機になっています。スキルも海外経験も、将来の自分への投資だと考えてください。
学生時代に読んで欲しい本	井田徹治『生物多様性とは何か』岩波新書。 藤原正彦『若き数学者のアメリカ』新潮文庫。 沢木耕太郎『深夜特急』新潮文庫。

氏名	田中英明（たなかひであき）
担当科目	コア政治経済学、政治経済学、信用と循環の政治経済学
現在の研究	孤立した個人間の交換関係である市場から、信用や信頼に基づく制度や機構がどのように生まれてくるのかという観点から、信用機構の見直しを進めています。「銀行」のイメージの革新が、「地域通貨」などの試みにつながることを願いつつ。
新入生へ	大学時代は後から振り返るととても短いけれど、その後の人生の中で、自分自身を見つめ直し、自分のあり方を考える際の原点となりうる時です。勉学に、遊びに、恋にと、どんどん新たなことに食欲に挑んでください。
学生時代に読んで欲しい本	気軽に読めて、頭をかき回す読書の醍醐味を『学校が教えないほんとうの政治の話』ちくまプリマー新書などの齋藤美奈子、『パンツが見える。』朝日選書などの井上章一、『〈階級〉の日本近代史』講談社選書メチエなどの坂野潤治、『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』新潮文庫などの加藤陽子でぜひ。

氏名	谷川義行（たにがわよしゆき）
担当科目	分析ツール、価格理論、数理経済学、他
現在の研究	経済諸変数の関係から経済を理解していくことは、経済を理解する上で本質的な知見を与えてくれます。このような視座を通じて、市場経済と価格の（数理的）関係をより深く理解していくことが私の研究の主要なテーマです。
新入生へ	君たちは高校までとは違うより自由度の高い場所で、学びの機会を得ることができました。その機会を最大限活用するためには何をすればいいのか、自問自答しながら進んでいきましょう。また、単なる娯楽としてではない、学術的な作法に則った読み方を身につけるためにたくさん本を読みましょう。読解力の養成、とても大事です。
学生時代に読んで欲しい本	F. A. ハイエク『隷従への道 全体主義と自由』東京創元社 D. エドモンズ, 他 『ポパーとウィトゲンシュタインとのあいだで交わされた世上名高い10分間の大激論の謎』ちくま学芸文庫 T. フランセーン『ゲーデルの定理—利用と誤用の不完全ガイド』みすず書房

氏名	得田雅章（とくだまさあき）
担当科目	計量経済学Ⅰ・Ⅱ、統計学A・B、コアセッション（統計学A・B）、マクロ経済学A、分析ツール
現在の研究	一貫した研究テーマは“非観測変数の定量化、ならびにその変数を用いた政策効果の実証分析”です。最近はこのテーマに沿い、Ⅰ. 政策効果の時系列分析（主に金融政策）、Ⅱ. 地価関数のクロスセクションあるいはパネル推計、Ⅲ. 基礎自治体レベルの経済波及効果推計、に取り組んでいます。
新入生へ	人生いろいろな場面で判断を迫られることがあります。自分にとって何が“最適”なのか判断するうえでデータ分析といったツールが大いに役立つでしょう。いままで勉強してきた数学が実学として活かされるまでもう少しです。恐れることなく“数”に挑みましょう。
学生時代に読んで欲しい本	ジョージ・アカロフ、ロバート・シラー『アニマルスピリット』東洋経済新報社 ケネス・S・ロゴフ『現金の呪い』日経BP社 河合雅司『未来の年表』講談社現代新書

氏名	中野桂（なかのかつら）
担当科目	環境問題を学ぶ、ものづくり
現在の研究	興味の対象は広く、近年は医療経済学や環境政策などの研究をしています。具体的には、「第一次医療施設における『妊娠リスクスコア』の有効性と地域医療連携に関する研究」や「低炭素社会へ向けての各種経済的手法の短・中・長期的及びポリシーミックス効果の評価」などの研究プロジェクトに参加しています。
新入生へ	五感を鍛えましょう。様々な社会経済問題も環境問題も五感を働かせることから解決の第一歩が始まると思います。
学生時代に読んで欲しい本	ダニエル・ゴールマン『EQ 心の知能指数』講談社 ダン・アリエリー『予想どおりに不合理』早川書房 岩井克人『ヴェニス商人の資本論』筑摩書房

氏名	松田有加（まつだゆか）
担当科目	現代経済学基礎、財政学総論、地方財政論
現在の研究	グローバル化した経済における税制について研究してきました。最近は、国際課税に取り組んでいます。
新入生へ	今すぐに役に立つとか立たないとかではなく、とにかくいろいろたくさん勉強しておきましょう。
学生時代に読んで欲しい本	アマルティア・セン『合理的な愚か者』勁草書房 シュムペーター『租税国家の危機』岩波新書 ガルブレイス『豊かな社会』岩波現代新書

氏名	御崎加代子（みさきかよこ）
担当科目	経済学史、現代経済学史、人間と経済
現在の研究	私は現代経済学の基礎を築いたレオン・ワルラス(1834-1910)の経済思想を研究しています。ワルラス経済学は現在、市場万能主義の源流と位置づけられていますが、ワルラス自身は、社会的正義の実現に生涯、身を捧げた人でした。私のワルラス研究は、効率と公正の両立・実現という現代社会の重要な課題と関連しています。
新入生へ	研究活動で、フランスに滞在することが多く、フランス文化（美術、建築、料理など）の素晴らしさに触れ、とても好きになりましたが、それが逆に日本文化の奥深さを再認識することにつながりました。学生時代は様々な異文化を体験する良い機会です。たくさん本を読み、様々な人々と交流し、旅行にも積極的に出かけてください。
学生時代に読んで欲しい本	アダム・スミス『国富論』岩波文庫 森嶋通夫『思想としての近代経済学』岩波新書 山之内靖 『マックス・ウェーバー入門』岩波新書

氏名	三ツ石郁夫（みつしいくお）
担当科目	社会経済史、欧米経済史、欧米の歴史
現在の研究	ドイツの戦前から戦後にかけての金融史、地域経済について研究しています。この時期のドイツ経済構造や行政システムに結びついた固有の内部様式は、国際的枠組みとの摩擦のなかで破綻と再生を繰り返します。現代日本にも通じる難問が山積していて、いわば宝の山です。
新入生へ	大学での4年間は皆さんに大きな可能性を与えてくれます。新たな知識、経験、交流を通じて、今まで気がつかなかった自分の成長した姿を描き出してください。そのためには、なぜだろうという問いかけと未知への好奇心を持つことが大切です。それがみなさんの精神を鍛え、価値を高めることにつながります。
学生時代に読んで欲しい本	大塚久雄『社会科学の方法』岩波新書 トマス・マン『ブッデンブローク家の人々』岩波文庫など ジョン・ダワー『敗北を抱きしめて——第二次大戦後の日本人——』上下、岩波書店

氏名	森 宏一郎（もり こういちろう）
----	------------------

担当科目	Microeconomic Analysis、エコロジカル経済学、キャリアデザイン論、プロジェクト科目、専門演習 I～IV
現在の研究	1. 都市のサステナビリティ（持続可能性）学 2. 個人と集団の環境リスク認知と環境配慮行動の経済学 3. 認知症の社会疫学 4. 地理情報システムを活用した医療のアクセシビリティの可視化
新入生へ	人生のなかの4年間は短い時間ではありません。短期的な成果を挙げることに加えて、プロセスそのものも充実させて中長期の成果が挙げられるように学生時代を過ごしてください。
学生時代に読んで欲しい本	ミルグロム・ポール, ロバーツ・ジョン『組織の経済学』NTT出版, 1997年。(Milgrom, P. and Roberts, J. (1992). Economics, Organization and Management. Prentice Hall.) マーティン・セリグマン(2013)『オプティミストはなぜ成功するか - ポジティブ心理学の父が教える楽観主義の身につけ方(新装版)』パンローリング 梅田望夫(2007)『ウェブ時代をゆく - いかに働き、いかに学ぶか』ちくま新書

氏名	山田和代（やまだかずよ）
担当科目	労働経済論、社会政策、比較経済論特殊講義
現在の研究	自分の身の回りの働く人々に目を向けてください。どんな「働き方」が見えますか？現代の日本社会における「働き方」に関心を寄せながら、歴史的・社会的・ジェンダ的視点から労働問題を研究しています。
新入生へ	大学4年間をあなたの興味の趣くままに知的世界に浸ってもらえたら嬉しいです。時間とお金が許すかぎり、日本国内や海外を旅してみるのもよいでしょう。こうした経験から、考え方の柔軟性を養い、他者への理解を深めてください。
学生時代に読んで欲しい本	小関智弘『働くことは生きること』講談社現代新書 鶴見良行『アジアの歩き方』筑摩文庫 鎌田慧『ロボット絶望工場』講談社文庫

氏名	吉川英治（よしかわえいじ）
担当科目	現代経済学基礎、公共経済学Ⅱ
現在の研究	世の中には貧富の差がつきものです。でもどうしてこれほど違うのか。努力の差、運の良し悪し、世間の仕組み、政治の力、…。まあこんなことを考えています。最近は経済学と倫理学の境界領域での仕事をしています。
新入生へ	学生時代は自由な時間がたくさんあります。いろんなことを楽しんでください。
学生時代に読んで欲しい本	高木仁三郎『市民科学者として生きる』岩波新書 向田邦子『父の詫び状』文春文庫 藤原正彦『古風堂々数学者』講談社、新潮文庫

氏名	和田佳之（わだよしゆき）
担当科目	公共経済学Ⅰ、環境問題を学ぶ、法と経済学
現在の研究	私の研究に対する基本姿勢は、人間社会を経済学の視点（手法）で説明づけるという点です。それには、一般に考えられている経済問題以外の、環境、政治、法律などに関わる問題も研究対象としてとらえる必要があります。
新入生へ	自分の研究にも関わりますが、米国留学以降特に、法廷を舞台とした作品を中心に映画を観るようになりました。「12人の怒れる男」、「評決」、「訴訟」、「エリン・ブロコビッチ」、「ニューオーリンズ・トライアル」などがお勧めです。
学生時代に読んで欲しい本	石黒浩『ロボットとは何か一人の心を映す鏡―』講談社現代新書。 中村修二『考える力・やり抜く力・私の方法』三笠書房。 ミッキー安川『ふうらい坊留学記』中公文庫。